提案１０

平成 29 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会　　期		開催地及び用務地	派遣候補者 （職名）	備　　考
			計			
1	フューチャー・アース 事務局会議 2017	9 月 20 日（水） ～ 9 月 22 日（金）	３日	コロラド ――― アメリカ	春日　文子 連携会員 （国立研究開発法人国立環境研究所 特任フェロー）	第一区分※

※平成 29 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（平成 29 年４月 28 日日本学術会議第 245 回幹事会決定）に基づく区分

（参考）

平成 29 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

（平成２９年４月２８日
日本学術会議第２４５回幹事会決定）

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、平成 29 年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、平成 29 年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第１区分

・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である科学委員会（SC: Science Committee）、関与委員会（EC: Engagement Committee）、評議会（GC: Governing Council）、及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

・本年度、SC、EC は一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

（注）SC と EC は諮問委員会として統合される予定。

(2) 第２区分

・フューチャー・アースの実施にあたり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるコア・プロジェクトに関する会議、タスクフォース、及び KAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。

・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第３区分

・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。

・上記にあたっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりを大きなものを優先する。

・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のコア・プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

提案１１

日本学術会議協力学術研究団体への新規申込みがあった団体の概要

	団体名	概　　要
1	日本健康体力栄養学会	健康と体力及び栄養の相互関係を調査・研究し、その成果を運動と栄養の実践活動に応用することを通して、健康に関わる知識および技術の進歩ならびに普及を図り、国民の健康増進と生活習慣病の予防に貢献する。
2	科学社会学会	科学社会学及び隣接領域の研究を奨め、科学・技術と社会の複合的にかかわる問題を解明する。また、広く技術に関する社会学的研究も扱い、学術成果の継続的な発表と闊達な検討の場を確保する。

４．シンポジウム等（第 23 期中の開催）

提案１２

公開シンポジウム「これはカゾクか：未来の「家族」のかたち」の開催について

１．主　催：日本学術会議社会学委員会フューチャー・ソシオロジー分科会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：平成２９年９月３０日（土）１３時３０分～１７時００分

５．場　所：学習院大学目白キャンパス中央教育棟３０３号室（仮）

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：

私たちは今、大きな転換点に立っている。格差の拡大、エネルギー政策、福祉制度、高齢化社会、家族の変化、移民・難民など、既存の研究枠組みでは十分に把握できない問題が多方面から噴出している。こうした問題に立ち向かい解決を目指すには、新しい発想にもとづく新しい学問の創出が必要とされている。

２０１６年１０月のシンポジウムにおける新しい社会学「フューチャー・ソシオロジー」創出宣言を受け、本シンポジウムでは、まず、家族の問題に立ち向かう。「近代」の生産物である今日の家族は、今後 50 年のあいだに全く異なるものになると予想される。どのような家族になるのか、家族の定義や内実が全く変わるのか。新しい家族のかたちを予想し、対応策を議論する。

８．次　第：

13:30　開会挨拶
遠藤　薫（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）

13:40　趣旨説明
佐藤　義倫（日本学術会議連携会員、東北大学大学院文学研究科副研究科長）

13:50　問題提起　「核分裂家族－モダニズム再考」
今田高俊（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授・統計数理研究所客員教授）

14:05　新しい親密圏「シェアハウスが反射する家族―親密性・ケア・共同生活」
久保田裕之（日本大学文理学部准教授）

14:25　親と子の未来「＜ハイブリッド＞な家族のゆくえ―融合・反転・競合」
野辺陽子（高知県立大学地域教育研究センター講師）

14:45　人間と機械が作る家族「AI、ロボット、ネットワーク（仮)」
栗原聡（電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）

15:05　（休　憩）

15:20　総合討論
（司会）　調整中

（15:20　討論者討論）「社会学の持続可能性：家族の変容に対して社会学は
どう対応すべきか一家族の死と再生」
矢澤修次郎（日本学術会議連携会員、一橋大学名誉教授）

（15:35　全体討論）

（16:40　コメンテーター)「カゾクの未来（仮)」
渡辺秀樹（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部教授）

16:55　閉会挨拶
野宮大志郎（日本学術会議連携会員、中央大学文学部教授）

９．関係部の承認の有無：　第一部承認

（下線の講演者等は主催分科会委員）

提案１３

公開シンポジウム「地方創生の取り組みとこれからの課題」の開催について

１．主　催：日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会

２．共　催：明治大学政治経済学部地域行政学科、明治大学自治体政策経営研究所

３．日　時：平成 29 年９月２日（土）13：30～17：00

４．場　所：明治大学グローバルフロントホール

５．分科会等の開催：開催予定

６．開催趣旨：

地方創生と言われて久しい。果たして地方創生は、新しい地方を創生しているだろうか。あるいは、地方創生に取り組むなかで、どのような課題が見えてきただろうか。そして、地方創生の取り組みは、人口減少のトレンドを変えられるだろうか。

本公開シンポジウムは、以上のような問題関心に基づいて、各地で行われている地方創生の取り組みの現状とこれからの課題について、関係する政治家や首長、有識者のご講演とシンポジウムを通じて、多角的に考察し、よりよい地方創生のあり方を探ってゆく。

８．次　第：

13：30　開会のあいさつ
　　大山　耕輔（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）
13：35　基調講演１　「地方創生－現在、そしてこれからの課題」
　　土屋　正忠（衆議院議員、前総務副大臣、前武蔵野市長）
14：20　基調講演２　「人口減少のトレンドと地方創生」
　　森田　朗（日本学術会議連携会員、津田塾大学総合政策学科教授、前国立社会保障・人口問題研究所長）
15：05－15：15　（　休憩　）
15：15　シンポジウム「地方創生の取り組みとこれからの課題」
　　パネリスト　稲村　和美（兵庫県尼崎市長）
　　橋本　正裕（茨城県境町長）
　　牛山　久仁彦（日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部教授）
　　コーディネータ　佐々木　信夫（日本学術会議第一部会員、中央大学大学院経済学研究科教授）
16：45　閉会のあいさつ　森田　朗（日本学術会議連携会員、津田塾大学総合政策学科教授、前国立社会保障・人口問題研究所長）

総合司会　外山　公美（日本学術会議連携会員、立教大学コミュニティ福祉学部教授）

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１４

公開シンポジウム「魅力ある生産農学教育を目指して」の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会農学分科会、日本農学アカデミー、全国大学附属農場協議会（予定）

２．共　催：日本作物学会、園芸学会、日本植物病理学会、日本育種学会、日本土壌肥料学会（すべて予定）

３．日　時：平成２９年９月８日（金）　１３：００～１７：００

４．場　所：日本学術会議講堂

５．分科会等の開催：開催予定

６．開催趣旨：平成27年９月、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農学分野の参照基準検討分科会は、報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準―農学分野―」を取りまとめ公表した。農学委員会農学分科会は、農学を構成する一分野である生産農学における学部教育について、同報告の参照基準を補完することを目的に議論を行い、その結果を取りまとめ平成29年６月28日に日本学術会議報告として公表した。

本シンポジウムでは、本報告を紹介するとともに、各大学での発展的カリキュラム、学生の受け入れ先からの生産農学を学ぶ学生への期待などを紹介し、生産農学分野の学部教育の今後の在り方を参加者とともに議論する。

７．次　第：

開会の辞 趣旨説明

大杉　立（日本学術会議第二部会員、東京農業大学客員教授）

講　演（13：05～）

１　農学分野における教育課程編成上の参照基準

奥野員敏（日本学術会議連携会員、元筑波大学生命環境系教授）

２　生産農学における学部教育のあり方について（報告の概要説明）

奥野員敏（日本学術会議連携会員、元筑波大学生命環境系教授）

３　生産農学における教育目標とカリキュラム編成（各大学における事例報告）

江面　浩（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授・つくば機能植物イノベーション研究センター・センター長）

位田晴久（日本学術会議連携会員、宮崎大学名誉教授）

夏秋啓子（日本学術会議連携会員、東京農業大学副学長）

４　附属農場と連携した生産農学教育の意義と将来像

斉藤邦行（予定）（全国大学附属農場協議会会長）

５　受け入れ先からの期待

寺島一男（予定）（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事）
小巻克巳（予定）（福島県農業総合センター所長）
鴨川知弘（株式会社サカタのタネ研究本部遺伝資源室ABSアドバイザー）

パネルディスカッション
−魅力ある生産農学教育を実現するための教育目標とカリキュラム編成上の新たな視点とは？−
司会　井上眞理（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授）

閉会の辞
国分牧衛（日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授）

８．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案１５

シンポジウム「畜産学の特性に配慮した教育・研究課題」の開催について

１．主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会

２．共催：日本畜産学会、日本畜産学アカデミー

３．後援：信州大学農学部

４．日時：平成２８年９月８日（金）９：００～１２：００

５．場所：信州大学伊那キャンパス（農学部）講義棟　2 階　21 番講義室

６．分科会等の開催：なし

７．開催趣旨：

日本学術会議の「農学分野の参照基準検討分科会」から「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　農学分野」が 2015 年 10 月８日に発出された。その中で農学の基本分野の一つとして畜産学・獣医学がまとめて取り上げられ、その定義や固有の特性が簡潔にまとめられている。これを受けて食料科学委員会畜産学分科会では「畜産学の特性に配慮した教育・研究課題―飼育動物の安定的利活用を目指して―」と題する報告を取りまとめ、2017 年６月 21 日に発出した。すなわち畜産学では、獣医学との結びつきが強いものの、獣医学とは異なる特性をもちながら教育・研究が行われている。特に畜産学には優れた家畜集団を作り出す育種学や畜産物（乳肉卵等）の利用学、さらに飼料学や草地学などが含まれており、獣医学以外の農学各分野との結びつきも強い。また参照基準の中で述べられている「地球環境や動物の生態に配慮しながら動物との共生を目指す」、「飼育動物を効率的に生産し、生産物の安全性を確保する」、「時代の要請に応じた育種改良を行い、動物の機能と能力を最大限に生かす」は畜産学に深く関わる特性である。これらについて、より深化させることを目的として報告を取りまとめたが、今回のシンポジウムではその中のいくつかの教育・研究課題について議論することとした。

８．次第

９：００～９：１０
開会のあいさつ
渡辺誠喜（東京農業大学名誉教授、日本畜産学アカデミー会長）

９：１０～９：２０
畜産学分科会発出の報告について
佐藤英明（日本学術会議第二部会員、東北大学名誉教授）

９：２０～９：５０
講演１　家畜生産を支えるアニマルウェルフェアとスマート畜産
竹田謙一（信州大学農学部准教授）

９：５０～１０：２０
講演２　畜産物の安全性の担保、特に放射能対策

眞鍋　昇（日本学術会議連携会員、大阪国際大学人間科学部教授・学長補佐）

１０：２０～１０：５０

講演３　応用動物の機能と能力を生かす最近のゲノム編集技術と繁殖技術

柏崎直己（日本学術会議特任連携会員、麻布獣医学園理事長、麻布大学獣医学部教授）

１０：５０～１１；２０

講演４　養豚チェックオフ制度、とんとん自助金は何を目指すか

志澤　勝（日本養豚協会会長）

１１：２０～１１：５０

総合討論

司会　佐藤英明（日本学術会議第二部会員、東北大学名誉教授）

討論者

竹田謙一（信州大学農学部准教授）

眞鍋　昇（日本学術会議連携会員、大阪国際大学教授・学長補佐）

柏崎直己（日本学術会議特任連携会員、麻布獣医学園理事長、麻布大学獣医学部教授）

志澤　勝（日本養豚協会会長）

１１：５０～１２：００

閉会のあいさつ

寺田文典（東北大学大学院農学研究科教授、日本畜産学会理事長）

関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案１６

公開シンポジウム「持続可能な都市農業の実現に向けて」の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会

２．後　援：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、日本農業工学会、農業施設学会、生態工学会（すべて予定）

３．日　時：平成２９年９月１９日（火）１３：００～１７：００

４．場　所：日本学術会議　講堂

５．分科会の開催：開催予定

６．開催趣旨：

近年、環境共生都市の実現への期待から、農業の持つ多様な機能が注目され、循環型社会構築のための都市農業の重要性が再評価されている。しかしながら、都市農業においても、農業従事者の高齢化や後継者不足等からその持続性には問題が生じている。このような背景から、平成 27 年４月に都市農業振興基本法が制定された。当分科会では、基本法の理念に立脚し、環境共生都市を目指した持続的な都市農業振興を推進するために、現在の都市農業における課題を整理し、都市農業振興に向けた施策や学術研究の方向性について検討した。特に、収益性に優れた施設農業を含めた多様な農業形態の共存について、都市農業の持つ機能と持続性の観点から検討し、報告を取りまとめた。

本シンポジウムでは、報告書の内容を紹介するとともに、持続可能な都市農業の実現に向けた学術研究・技術開発の方向性について、農業生産環境工学的視点を中心に議論する。

８．次　第：

13:00　開会挨拶

大政謙次（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、愛媛大学大学院農学研究科客員教授、高知工科大学客員教授）

13:05　趣旨説明

荊木康臣（日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授）

講演：

司会：荊木康臣（日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授）

13:15　報告「持続可能な都市農業の実現に向けて」の概要紹介

大政謙次（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、愛媛大学大学院農学研究科客員教授、高知工科大学客員教授）

13:35　施設農業の経営的な優位性や都市農業での課題（仮題）

奥島里美（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門ユニット長）

13:55　都市農業における資源循環や効率的なエネルギー利用の可能性について
北宅善昭（日本学術会議連携会員、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

＜休憩＞14:25-14:40

司会：位田晴久（日本学術会議連携会員、宮崎大学名誉教授）

14:40　都市農業における多様な農業形態の可能性
増田　昇（日本学術会議連携会員、大阪府立大学名誉教授・研究推進機構植物工場研究センター長）

15:10　都市農業への WebGIS の利用（仮題）
小川茂男（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門・技術移転部部長）

15:30　東京都における取組（仮題）
講演者（調整中）（東京都農林水産振興財団東京都農林総合研究センター）

15:50　農耕文化都市の実現に向けた研究開発・人材育成（仮題）
古在豊樹（日本学術会議連携会員、千葉大学名誉教授）

16:15　総合討論
進行：荊木康臣（日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授）
コメンテータ：位田晴久（日本学術会議連携会員、宮崎大学名誉教授）

16:50　閉会挨拶
橋本　康（日本学術会議連携会員、愛媛大学名誉教授）

９．関係部の承認の有無：　第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１７

公開シンポジウム「設計者・コンサルタントを対価の多寡で選んで良いのか
知的生産者の公共調達に関わる法整備　－　会計法・地方自治法の改正　－」
の開催について

１．主　催：日本学術会議法学委員会・経済学委員会・土木工学・建築学委員会合同知的生産者の公共調達検討分科会

２．共　催：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会、
公益社団法人日本造園学会、公益社団法人日本都市計画学会

３．後　援：公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人建設コンサルタンツ協会

４．日　時：平成 29 年 9 月 11 日（月）14：00～17：30

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：現代、我が国は、世界でもほとんど唯一、物とサービスの公共調達を同一の方法で原則選んでいる。そのため、多くの建築、公園、土木構築物、デザイン等が対価の多寡で競われる、いわゆる入札によって多く選定されている。設計入札による建物等環境は決して良い、美しいものになっていない。我が国は観光立国としても、美しい環境を形成していかなければならない。そのためにはアイディア、デザイン、技術により競争するプロポーザル・コンペ方式によって選定されなければならない。そのための法整備を早急に行う必要がある。日本学術会議の提言に基づく、多くの関係者の熱い議論と実行を期待したい。

８．次　第：
14：00　趣旨説明
仙田　満（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
14：15　我が国の公共調達の実態
矢田　努（日本学術会議連携会員、愛知産業大学大学院造形学研究科教授）
14：30　海外における公共調達の方法
木下　誠也（日本学術会議連携会員、日本大学危機管理学部教授）
14：45　会計法・地方自治法の改正
福井　秀夫（日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学教授）

15：00－15：10　（　休憩　）

15：10　各界からのメッセージ（10 人×10 分）　以下、候補
一般社団法人日本建築学会会長
公益社団法人土木学会会長
公益社団法人日本造園学会会長
公益社団法人日本都市計画学会会長

公益社団法人日本建築家協会会長
一般社団法人日本建築士事務所協会連合会会長
公益社団法人日本建築士会連合会会長
一般社団法人建設コンサルタンツ協会会長
一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会長
公益社団法人日本技術士会会長
公益社団法人都市住宅学会会長
公益社団法人日本不動産学会会長
日本地域学会会長
内閣総理大臣補佐官
国会議員

16：50　総合討論
（司会）仙田　満（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
福井　秀夫（日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学教授）
（コメンテーター）
白藤　博行（日本学術会議第一部会員、専修大学法学部教授）
永瀬　伸子（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授）
吉野　　博（日本学術会議第三部会員、東北大学総長特命教授、東北大学名誉教授、秋田県立大学客員教授、前橋工科大学客員教授）
金本　良嗣（日本学術会議連携会員、電力広域的運営推進機関理事長）
木下　　勇（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究科教授）
小澤紀美子（日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授）
亘理　　格（日本学術会議連携会員、中央大学法学部教授）

17：30　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部・第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

提案１８

公開シンポジウム「ITの進展から派生する諸課題に関する学術シンポジウム」
の開催について

１．主　催：日本学術会議情報学委員会ITの生む諸課題検討分科会

２．共　催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所

３．後　援：一般社団法人情報処理学会、国立研究開発法人情報通信研究機構（予定）

４．日　時：平成29年8月9日（水）10:30～17:00

５．場　所：日本学術会議講堂（他３室）

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：
　科学技術の発展は、私たちに多大なる恩恵をもたらしたが、一方でこれまで存在しなかった新たな問題も引き起こしている。このように科学技術の「光」及び「影」とは何か、「影」の克服事例、科学技術の社会に与える影響、規制が科学技術や社会と経済の発展に及ぼす影響を対比させ、その適切なあり方を提示することを目的として、第三部において「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会が2015年に設立された。このような「光」と「影」の問題が深刻化している科学技術分野は様々であるが、情報技術（IT）もその一つである。すなわち、ITは発展が目覚ましく、また、それが一般の人々の身近な生活の場面に浸透しているだけに、この分野における「影」の部分が、大きな社会問題となっている。本シンポジウムでは、IT分野に特化した「光」と「影」について議論し、その適切なあり方を提示することを目的とする。

８．次　第：
（司会）東野　輝夫（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）

10：30　開会挨拶
喜連川　優（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長）
11：00　講演「AI学会的に課題と方策について」
堀　　浩一（東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻教授）
11：30　講演「AIの光と影II(仮)」
講演者未定

12：00-13：30　（　昼食・休憩　）

13：30　講演「The Project TransAlgo（AIの透明性）（仮）」
Nozha Boujemaa（Research Director at Inria, Director of Convergence Institute I2DRIVE (Interdisciplinary Institutefor Data Research: Intelligence, Value and Ethics, Head of TransAlgo National Scientific Platform for Transparency and

Accountability of Algorithmic Systems)

14：10　講演「多数の AI が連携する世界における法的枠組み（仮)」
須藤　修（東京大学大学院情報学環長・教授）

14：30　講演「AI の発展によって人間の職業はどうなるか？（仮)」
桑津浩太郎（株式会社野村総合研究所研究理事）

14：50－15：10　（　休憩　）

15：10　講演「AI とどう付き合うか？（仮)」
原山　優子（総合科学技術・イノベーション会議議員）

15：30　パネル討論会
安浦　寛人（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長）
Nozha Boujemaa（INRIA）
辻井　潤一（国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター長）
徳田　英幸（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究機構理事長）
原山　優子（総合科学技術・イノベーション会議議員）
喜連川　優（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長）

16：50　閉会挨拶
安浦　寛人（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長）

17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

提案１９

公開シンポジウム「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォーム」
の開催について

１．主　催：日本学術会議化学委員会分析化学分科会、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会、一般社団法人日本分析機器工業会、公益社団法人日本分析化学会

２．共　催：なし

３．後　援：公益社団法人日本化学会、国立研究開発法人産業技術総合研究所 COMS-NANO

４．日　時：平成 29 年９月６日（水）13：00～17：00

５．場　所：幕張メッセ国際会議場 2 階コンベンションホール A

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：計測分析技術は、我が国が得意とするものづくりへの展開を通して、イノベーション創出の基盤を支えてきている。そのための技術を提供する計測分析機器産業界、これを利用する素材・部材産業界は、研究開発の転換点を迎えている。高い国際競争力を維持・向上するため、基盤共有化・オープン化の必要性が高まっていることを受け、我が国の計測分析プラットフォームをどのように構築すべきか、産業界、アカデミア各方面の現状と期待、構築戦略について幅広く議論・討論する。分析技術及び機器開発は最先端研究には必要不可欠であるが、我が国には産官学共にその開発と利用ができる拠点がない。日本学術会議では、「最先端分析・計測機器開発センターおよび共同利用プラットフォーム構想」を提案している。本シンポジウムでは、最先端計測の動向に関する基調講演及び「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォーム戦略の構築」に関する研究開発専門委員会の活動報告を紹介する。

８．次　第：
13：00　主賓・来賓挨拶
　　鈴木　孝治（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授）
13：10　講演「最新のメタボローム解析」
　　曽我　朋義（慶應義塾大学先端生命科学研究所教授）
13：40　講演「最新のバイオイメージング」
　　宮脇　敦史（国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター副所長）
14：10　講演「最新の安全安心計測」
　　瀬戸　康雄（科学警察研究所副所長）
14：40　講演「オープンイノベーション時代の分析産業」
　　栗原権右衛門（一般社団法人日本分析機器工業会会長）

15：10－15：30　（　休憩　）

独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会「イノベーション創出に向けた計測分析

プラットフォーム戦略の構築」報告
15：30　活動報告「ソフトウエアプラットフォームの構築に向けて」
安永　卓生（九州工業大学大学院情報工学研究院生命情報工学研究系教授、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会 WG 主査）
15：45　活動報告「ハードウエアプラットフォームの構築に向けて」
藤田　大介（国立研究開発法人物質材料研究機構理事、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会 WG 主査）
16：00　活動報告「ソリューションプラットフォームの構築に向けて」
柳内　克昭（株式会社 TDK テクニカルセンターユニットリーダー、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会 WG 主査）
16：15　活動報告「標準化の視点で考えるプラットフォーム構築」
藤本　俊幸（国立研究開発法人産業技術総合研究所戦略部長、独立行政法人日本学術振興会研究開発専門委員会 WG 主査）

16：30　全体討論
（司会）一村　信吾（日本学術会議連携会員、名古屋大学イノベーション戦略室長・教授）

17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

５．シンポジウム等（第 24 期開催）

※第 24 期に会員・連携会員であると考えられる者が複数名、挨拶・講演することが要件。
（また、第 24 期冒頭にて主催分科会等を早急に設置すること。）

提案２０

公開シンポジウム「受精時・胎芽期・胎生期・幼児期の環境因子から成人後の健康や次世代の健康を考える」の開催について

１．主　催：日本学術会議基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会、第 76 回日本公衆衛生学会総会実行委員会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

２．後　援：日本母性衛生学会、日本生命科学アカデミー

３．日　時：平成 29 年 11 月２日(木)13：00～15：00

４．場　所：鹿児島市公民館

５．分科会等の開催：なし

６．開催趣旨：

受精時・胎芽期・胎生期・幼児期乳幼児期の環境因子【栄養、環境化学物質、ストレス等】が、健康あるいは成人期の生活習慣病の発症素因を形成し、出生後の望ましくない環境がその素因に作用して小児期･成人期の生活習慣病が形成される。時にその素因は世代を超えて伝達される。この新たな医学学説としての DOHaD 説（Developmental Origins of Health and Disease）が注目されている。膨大な疫学調査、動物実験、生体試料の解析から仮説から学説と認識されてきている。小さく生まれた場合、生活習慣病の発症リスクは高い。日本の低出生体重児（出生体重 2500ｇ以下）の割合は長期に高値を推移しており、次世代の健康障害が強く危惧されている。その疾病素因はエピジェネティック変化である。しかし日本では「小さく産んで大きく育てる」のが良いとの考え等が今尚流布しており、当然ながら DOHaD 説を知る人々は少ない。この新たな学説に基づいて妊娠前―乳幼児期の栄養を含めた環境の意義と重要性を、医療関係者のみならず一般社会の人々が知ることこそ、出生体重の低下を防ぎ、次世代の健康を確保するものである。これを広く周知する場として本市民公開講座を開催する。

７．次　第：

座　長：

池ノ上　克（宮崎大学学長）

岸　玲子（日本学術会議連携会員、北海道大学環境健康科学研究教育センター特別招へい教授）

講演会 13:00－15：00

開会の挨拶:
　小林　章雄（日本学術会議連携会員、愛知医科大学名誉教授）

1)「胎児期・幼児期の環境因子が次世代の健康や発達に与える影響」(35 分)
　岸　玲子（日本学術会議連携会員、北海道大学環境健康科学研究教育センター特別招へい教授）

2)「千葉出生コホート研究から分かってきた環境と次世代の健康」(35 分)
　森　千里（千葉大学医学研究院環境生命医学教授・予防医学センター長）

3)「妊娠中の栄養と出生体重からみた中国の次世代の健康を考える」(15 分)
　顧　艶紅（大阪医科大学医学部衛生学・公衆衛生学講師）

4)「小さく産んで大きく育てるのは良いのか？」(30 分)
　福岡　秀興(早稲田大学ナノライフ創新研究機構規範科学総合研究所招聘研究員)

終わりの挨拶：秋葉　澄伯（日本学術会議二部会員、鹿児島大学名誉教授）

８．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

※申請理由
　本シンポジウムの意義は、開催趣旨に述べたとおりです。
　来期の会員・連携会員の２名以上が参加する体制の確保を見込んでいます（今期基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会の構成員から、23-24 期会員の秋葉澄伯委員及び 23-24 期連携会員の小林章雄委員長がシンポジウム参加予定)。

提案２１

公開シンポジウム「第 10 回形態科学シンポジウム：『生命現象をのぞき込む
～試験に出ない？基礎研究の凄みと楽しさ～』」の開催について

１．主　催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、
基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会

２．後　援：日本細胞生物学会、日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学会

３．日　時　：2017 年 11 月４日（土）13：30～17：30

４．場　所：知恩院　和順会館ホール

５．分科会開催予定：開催予定

６.開催趣旨：次世代の研究を担う若い高校生（主に１年生、２年生）約 150 名に対して、医科学・生物学の基礎研究の素晴らしさや最先端科学の面白さをわかりやすく解説し、啓蒙するため、生命科学領域で世界的に研究をリードする研究者の講演を行う。また、大学研究機関で活躍する第一線の研究者と高校生との交流会（茶話会）を開催し、face-to-face の雰囲気の中で研究者の実態を紹介、実質的な質疑応答を通して、理学、医学、薬学、農・獣医学など基礎生命科学系の研究とはどういうものか、研究者の生活はどうなっているのか、通常の講演会や大学・研究施設でのオープンキャンパスでは体験できない企画を予定している。

７．次　第
13：30　開催の挨拶
岡部繁男（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学系研究科神経細胞生物学分野教授）
13：40　講演１
司会　中山和久（日本学術会議連携会員、京都大学大学院薬学研究科生体情報制御学分野教授）
講演題目「タンパク質の品質を管理する細胞応答」
講演者　森　和俊（京都大学大学院理学研究科教授）
14：30　休憩
14：40　講演２
司会　西　真弓（日本学術会議連携会員、奈良県立医科大学医学部・医学科第一解剖学教授）
講演題目「脳は子を産む司令塔：最先端脳科学から見えてきたこと」
講演者　東村博子（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）
15：30
司会　河田光博（日本学術会議連携会員、佛教大学保健医療技術学部教授）
高校生へのメッセージ（日本学術会議会員、連携会員から）
16：10　休憩
16：20　高校生と語る会
進行　中野明彦（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻

教授）
渡辺雅彦（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院医学研究科教授）
高校生と日本学術会議会員、連携会員との交流会
17：20　まとめ
菊池　章（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院医学系研究科分子病態生化学・教授）
17：30　閉会挨拶
内山安男（日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学研究科教授）

８：関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

※申請理由
・毎年高校生を対象とした「形態科学シンポジウム」を開催し、非常によい反響を得ているところ、本年も第 23 期開催として調整したところであるが、会場等の都合により第 24 期の 11 月４日に開催することとなった。
・本シンポジウムは講演のみならず、直接高校生と対話し、基礎研究や最先端科学の面白さをわかりやすく解説、質疑応答することで研究者にとっても、非常に有意義なシンポジウムとなっている。
・なお、来期の会員・連携会員の２名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（今期細胞生物学分科会から 23-24 期会員の菊池章委員及び 22-23 期会員の中野明彦委員、形態・細胞生物医学分科会から 23-24 期会員の岡部繁男委員及び 23-24 期連携会員の河田光博委員がシンポジウムに参加予定）。

提案２２

公開シンポジウム「沿岸地域を再生させるための水産業を考える」の開催について

１．主　催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

２．共　催：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会、東京海洋大学、北里大学海洋生命科学部（すべて予定）

３．後　援：大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会（すべて予定）

４．日　時：平成２９年１１月６日（月）１３：００～１７：００

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：我が国における水産業従事者は、長年にわたり右肩下がりで減少し続けている。そして昨今、漁村の生産年齢人口の減少や都市部への流出は、経済格差と地域格差の拡大を加速している。それを裏付けるように、６年前に東日本大震災により大きな被害を被った東北地方沿岸では、復興のみならず、復旧すらおぼつかない地域も出ている。これらの現状を鑑み、食料科学委員会水産学分科会では、昨年開催したシンポジウム「成熟社会における持続可能な水産業の在り方とその中長期戦略」に引き続き、現在推進されているより現実的な取り組みを紹介する。特に、水産業を発展させるためには、沿岸地域をどのように再生させるべきなのかについての諸施策を深堀しながら、あるべき姿を模索したい。具体的には、政府とりわけ内閣府が取り組んでいる地方再生まち・ひと・しごとの取り組み、その中の水産海洋系研究者の役割や日本の漁村社会の特徴について理解するとともに、現在水産庁が進めている水産基本計画や、総合海洋政策本部が行っている海洋基本計画について、特に沿岸地域の取り組みを学び、今後の方向性を議論するために企画した。

８．次　第：

13：00　開会の挨拶
　　渡部　終五（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部特任教授）

13：10　人口地理学的観点からみる日本漁業の現状と見通し
　　山内　昌和（早稲田大学教育・総合科学学術院准教授）

13：40　水産業を活用した漁村活性化：水産基本計画および海洋基本計画を見据えて
　　八木　信行（日本学術会議特任連携会員、東京大学農学生命科学研究科教授）

14：10　地方創生における水産業の役割
　　鷲尾　圭司（国立研究開発法人水産研究・教育機構 理事（水産大学校代表））

14：40－14：50　（　休憩　）

14：50　世界から見た日本の漁業と漁村の特色
　　まくどなるど　あん　(Anne MCDONALD)
　　（上智大学大学院地球環境学研究科教授）
15：20　浜プランの現状と課題
　　河野　唯　（高知県水産振興部土佐清水漁業指導所技師）
15：55　総合討論（質疑応答）
（司会）古谷　研（日本学術会議連携会員、創価大学大学院工学研究科教授）
（コメンテーター）片山　知史（東北大学大学院農学研究科教授）
　　工藤　貴史（東京海洋大学学術研究院准教授）
　　牧野　光琢（国立研究開発水産研究・教育機構中央水産研究所漁業管理グループ長）
　　高浜　彰　（全国漁業協同組合連合会浜再生推進部長）
16：55　閉会の挨拶
　　竹内　俊郎（日本学術会議連携会員、東京海洋大学学長）
17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

※申請理由
・学術会議食料委員会水産学分科会は、水産・海洋科学関係の日本学術会議学術協力団体16学協会で結成されている水産・海洋科学連絡協議会と共催で例年シンポジウムを開催しており、本年においては特に今期中に発出予定の提言「わが国における持続可能な水産業のあり方-生態系アプローチに基づく水産資源管理-」に関連して下記の趣旨で11月６日に開催する予定である。
・講演者には地方の漁業指導所技師も加えるなど、関係者や市民の参加、並びに議論が期待されるようなシンポジウムを実行する予定である。
・また、来期の会員・連携会員の２名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（今期水産学分科会から、23-24期連携会員の古谷研委員及び竹内俊郎委員、また、22-23期会員の渡部終五委員が参加予定）。

提案23は後援関係のため、資料５本紙を御参照ください。